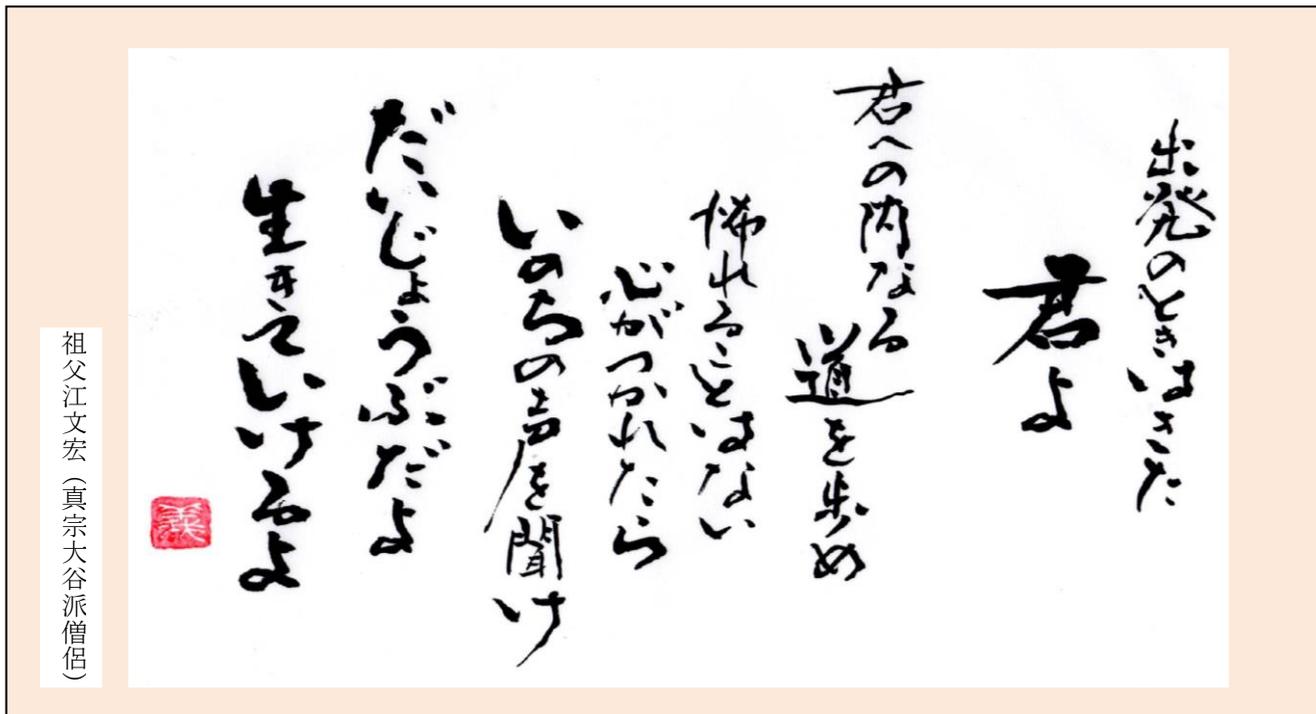


真宗大谷派 存明寺通信

No.189

2019年(仏歴2550年)3月10日発行



祖父江文宏(真宗大谷派僧侶)

だいじょうぶだよ

生きていけるよ

私が30代だった頃、親しくしていただいた祖父江文宏さん。祖父江さんは真宗大谷派の僧侶であり、養護施設・暁学園の園長さんをしてもらった。親の都合により一緒に生活することができなくなった子どもたち50人と共同生活をしながら、親鸞聖人の教えに生きた人だ。

祖父江さんは小さな人たちの悲しみの声をきちんと聞いた人だった。そして、その人たちに自らの言葉で親鸞聖人の教えを語り続けていった人だった。その人の残した言葉が上の言葉である。新たな世界に旅立つ人に贈られた熱いメッセージである。

だいじょうぶだよ 生きていけるよ
いのちの声を聞きさえすれば

外は春。新たな世界に旅立つ人とともに味わいたい、先を歩んだ人の生きた言葉である。それは私への愛のこもった応援歌でもある。

(住職・酒井義一)



悲しみには

いろいろなすがたがある

存明寺住職 酒井 義一

前号でも触れましたが、前坊守である実の母が、昨年10月6日の朝、脳梗塞で倒れ、病院に運ばれました。緊急手術をしたのですが、半身がマヒし、言葉を失ってしまい、今は病院のベッドの上で寝たきりの生活になってしまいました。あれから5カ月が経ち、84歳になった母は、今も病院に入院したままです。日常生活から母がいなくなり、私もいろいろなことを感じながら生活をしてきました。

ここまで母の状態は悪くなつてはいなかったのではないか。そんな思いがふと湧いてきて、自分を責めてしまうことがあります。また、それまでそこにいるのが当たり前だった母が、ある日突然日常からいなくなってしまったのですから、いつも母が座っていた席は空いたままです。愛用していた母の食器などもそのままです。そのことに気がつくのと、ふとさびしさを感じてしまいます。今まで何気なくかわしていた会話やちょっとした言い争いでさえ、なつかしく思い出します。そこにいるのが当たり前だっただけに、その人がいない現実にはさびしさを感じてしまいます。

そして、これはあまり人様には言えないことかもしれませんが、正直ほっとする自分を感じてしまうこともありました。母は認知症を患っていました。自分の部屋がわからなくなってお寺の中を徘徊したこともありました。物がなくなつたと思ひ込んで誰かを犯人にしたこともありました。母が通う3つの病院への送り迎え、一日4回飲む薬のチェック、食材の買い出し、調理……。それらすべてのことから解放されたことに対して、なぜかほっとしてしまふ自分を感じてしまったのでした。これは母には言えないことですが、実は私の中から沸き起こった正直な思いでした。

以前、人間が感じる苦しみ・悲しみには、実はいろいろなすがたがあるということをお話していただきました。私たちは、便宜上「悲しみ」と一言で表現をしてしまいますが、そこにはいろいろなすがたがあるのだというのです。私がこの数カ月の間に感じた後悔の思いやさびしさ、なつかしさやほっとしてしまう安堵でさえも、人間が感じる悲しみのいろいろなすがたなのだということでした。

母は言葉では言いませんが、「あなたの中にはこのようないろいろなところがあるのよ、そのことになにか気がついてね」と無言の呼びかけをしているかのように感じています。

仏さまは観経というお経の中でいろいろな苦しみや悲しみをいただく韋提希という夫人にこう呼びかけます。

汝はこれ凡夫なり。
遠く観ることあたわず。
(観経95ページ)

あなたは凡夫ただびと。欲もおおく、自分のことを第一に考え、そねみねたむころもある。遠くや自分のすべてを見ることもできない。そんないろいろなすがたの闇を抱く人間なのだよ、ということでしょう。

そのような仏さまの言葉が響いてきます。それは言葉を発しない、寝たきりの母を通して届けられる仏さまから私へのメッセージのようです。

いよいよ仏さまからの呼びかけを聞いていきたいものです。
(住職)



存明寺の1年 写真館

1月 修正会



4月 仏具のおみがぎ



7月 おぼん法要



8月 青年のつどい



11月 報恩講法要



11月 真宗本廟奉仕団



親鸞につどう報恩講法要

昨年しんらんの11月、親鸞しんらんにつどう報恩講法要ほうおんこうほうようが行われ、大勢の方々の参詣さんぎがあった。講師には沖繩から知花昌一さん(真宗大谷派僧侶)をお招きし、法要や法話・お斎とき(精進料理のお昼ごはん)などが行われた。

講師の知花さんは「いのちというのは、どのようなのちも生きるために生まれてくるのです」「本来の親鸞しんらんの教えは、平和と平等を求めていくという宗教」と熱く親鸞の教えを語られた。

おとなの修学旅行奉仕団

11月下旬の三日間、京都・東本願寺にておとなの修学旅行(奉仕団)が行われ、23名が参加した。今年が8回目となる。昨年夏にリニューアルした東本願寺の宿泊施設「同朋会館どうぼう」に泊まり、本山報恩講法要ほうおんこうに参詣し、法話ほうわを聞き、語り合いなどを行なった。参加者からは、「食事の時に色々な人と話せてうれしかった」「親鸞のこともっと勉強したくなった」「法話の内容が入ってきて、仏教を身近に感じた」などの感想があった。

年のはじめの修正会

「年のはじめはお寺で軌道修正しゅしやうえ」。1月1日に恒例の修正会が行われ、多くの参詣があった。当日の住職法話より。

「本人はまっすぐ歩いているつもりでも、人間は必ず曲がる。自分にとつて都合のいい方に。しかも本人はそれに気がつけない。それを教え導くのが仏さまの教え。今年も軌道修正をしながら、共に歩んでいきましょう。」
乾杯やおしるこ、書き初めなどを楽しみながら共に新年を祝った。

『生きる』へのお志 御礼

- 内井 照江さん
- 禿 覚英さん
- 島田レイ子さん
- 竹下 素子さん
- 武田 紀美さん
- 竹谷タケ子さん
- 本多 清江さん
- 総額三六、〇〇〇円也

印刷代・郵送代として。
誠に有難うございました。

お寺のひろば 2019

3月9日(土)	14時	樹心の会
3月15日(金)	13時	新 おそうじの日
3月21日(木)	11時と13時	春のお彼岸法要
3月30日(土)	14時	グリーンフケアのつどい
4月13日(土)	14時	樹心の会
4月27日(土)	10時	おみがきのつどい
5月3日(金)	12時	永代経法要
5月18日(土)	14時	樹心の会
6月8日(土)	14時	樹心の会
6月22日(土)	14時	グリーンフケアのつどい
7月6日(土)	11時	新盆法要
7月13日(土)	11時と13時	お盆法要
8月31日(土)	午後	青年のつどい
9月7日(土)	14時	樹心の会
9月19日(木)	13時	新 おそうじの日
9月23日(月)	11時と13時	秋のお彼岸法要
9月28日(土)	14時	グリーンフケアのつどい
10月5日(土)	14時	日帰り旅行会(深大寺)
10月12日(土)	14時	樹心の会
10月26日(土)	10時	おみがきのつどい
11月2日(土)	14時	報恩講のゆうべ
11月3日(日)	12時	報恩講法要
11月9日(土)	14時	樹心の会
12月14日(土)	14時	樹心の会
12月21日(土)	14時	グリーンフケアのつどい

◎ぞんみょうじこども会 月一回
 ◎ぞんみょうじこども食堂 月一回
 ◎子育てサロンいちごのへや 月一回

春のお彼岸(ひがん)法要

3月21日(木・春分の日)

10時 新企画納骨堂・無量寿にて法要
 11時 本堂にて法要と法話 午前の部
 13時 本堂にて法要と法話 午後の部
 ※入場無料(2回)
 場所 真宗大谷派 存明寺
 内容 正信偈の唱和・お話
 お話 酒井義一住職とご門徒有志
 ※一回40分程度。ご参詣ください。

春の法要 すべての亡き人を偲んで

永代経法要

5月3日(金・祭日)正午

講師 今泉温資先生(新潟・往生人舎)
 講題 泣くことの大切さ
 涙を流すことの尊さ
 場所 真宗大谷派 存明寺
 日程 12時 お昼ごはん(精進料理)
 13時 永代経法要
 14時 永代経法話(今泉先生)
 15時 閉会・解散

◎4月27日(土) 10時〜12時

おみがきのつどい

清掃の日、ご協力をお願いします。

【あとがき】

▼春です。冬の間はまるで枯れてしまつたかのような木々に、やがて花が咲きだします。サンシュユ・ハクモクレン・さくらと、お寺の境内も、にぎやかになります。
 ▼花咲かす 見えぬ力を 春という人となす 見えぬ力を 仏という
 ▼春は目には見えません。しかし、花を咲かせるはたらきを見て春を感じる事ができます。仏さまも目には見えません。しかし、まるで枯れてしまつたかのような人間を目覚めさせ、立ち上がらせるはたらきに 出遇えば、仏さまを感じる事ができるでしょう。
 ▼そんな仏さまに出遇う歩みを大切にしたいものです。(住職)



東京都世田谷区北烏山4-15-1
 真宗大谷派 存明寺
 住職 酒井義一(釋諦信)
 〒157-0061 TEL 03-3300-5057
 FAX 03-3300-5880
 E-mail: sakai@zomyo.ji.jp